



# ソル倶楽部編／ソル・ギター作品集

## Op.40 スコットランド民謡による幻想曲

### Fantaisie sue un air favori Ecpssais

1829年また30年に出版されたパリのパシーニ初版を底本とした。出版番号8。また1841年頃に出版されたDunstのドイツ版も参考にした。

献呈文は「わが弟子メアリー・ジェーン・バーデット嬢に捧げる」。

被献呈者メアリー・ジェーン・バーデット（1812～1895）はチオルナムの名士アーサー・バーネット卿 Arthur Burdett Esq.（1770-1842）の長女。この一家の出自はアイルランドである。メアリー・ジェーンは1848年5月24日にブライトンで第24連隊中佐ロバート・ブルークス Robert Brookes と結婚するが、ロバートは翌1849年1月13日に行なわれたインドの Chillianwallah の戦いで戦死している。

メアリー・ジェーンはソルの優秀な生徒であり、《ギター教則本》の中で次のように触れられている。

ギタリストは和声学にたけていないといけない。それだけで和声学を理解しないものよりも優位に立つことになる。つまり、ピアノ（和声楽器の1番目の楽器）を普通に弾ける程度の演奏者であれば、すでにギターに関しても非常に大切な常部分をすでに習得していることになるのである。今話したことを証明するをする例が最近体験した。メアリー・ジェーン・バーデット嬢（アーサー・バーデット氏のお嬢様）のギターの急速な上達である。彼女はピアノを上手に演奏する。教育を完成させるために彼女は同時に有効と考えられるさまざまな種類の勉強を時間が許す限り行なっている。ギター演奏もその1つである。彼女はピアノ音楽での上達と内容をすでに知っていたので、私が28回のレッスンでギター演奏原理を教え、指示しただけで、彼女は私が彼女に献呈した《幻想曲 op.40》を弾くまでになった。私はこれまでにそのような結果を、ピアノを引き生徒であれ、ギターの勉強に最高の熱意をあたむけた生徒であれ、他の生徒から得たことは1度もない。それは彼らが私のところに来る以前に演奏の自由なスタイルを阻む習慣が身についていたこと、音楽を理解すべき時に音符の教え方だけを教えられたことが理由であることは明らかである。

ということで、被献呈者はアイルランド系の英国人女性であり、当時流行していた英国の歌を変奏曲のテーマに使ったら、それがたまたまスコットランド民謡だったという関連なのだろう。

さて、このスコットランド民謡であるが、作曲家は「エジンバラの James Millar」ともフィドルの作曲家 Niel Gow とも言われている。そして作詞 Robert Burns である。いずれも18世紀の人々である。

パリの初版、ドイツ版ともに第1変奏のリピートが崩れて、不完全になっている。この楽譜では他の変奏のように前半後半の繰り返しとなるように修正した。

第3変奏以降に現われるハーモニックスはすべて自然ハーモニックスである。すべての発音場所を《教則本》で確認し、ゆめゆめ上声部だけ人工ハーモニックス（オクターブ・ハーモニックス）で弾いたりしないようにしたい。

菅原 潤

※ 2009年10月23日公開

à son Elève Mary Jane Burdett

# Fantaisie

sur un air favori Ecosais

Fernando Sor, op.40

Edited by Jun Sugawara

Andante moderato

Introduction

© = D

5

9

13

18

22

© Copyright 2009 by HOMA dream Inc. Tokyo  
International Copyright Secured.  
All Rights Reserved. Printed in Japan.



Theme

4

7

11

15

18

Var.1

4

7

9

13

16

19



Var.2

3

6

9

13

16

19

Var.3

harm.

3

6

harm.

9

12

14

harm.

16



19

harm.

1.

22

2.

25

27

29

harm.

33

harm.

3